

事業報告

自 2014年7月 1日

至 2015年6月30日

1. 事業の概況

一般社団法人日本バレーボールリーグ機構(以下「Vリーグ機構」という)は、Vリーグと名称を改めてから昨シーズンで20年目の節目を迎えました。21年目となった今シーズンは新たな一步を踏み出すべく、V・プレミアリーグにおいて、新ポストシーズン方式であるファイナルステージ制を導入しました。また、V・プレミアリーグ、V・チャレンジリーグ両リーグにおいて、国際大会にあわせたポイント制による順位決定方式を採用するなど、スリリングな大会を演出するべくリーグの改革を行いました。以下、第10期事業年度の概況を取り纏め報告します。

2014年9月24日に開催した第9回定時社員総会終了の時をもって、全理事が任期満了により退任し、新たに12名の理事を選任しました。重任した理事および新たに選出された理事により開催した理事会において、木村憲治代表理事会長を再任し、退任した井原実副会長に代わり、嶋岡健治副会長を選任しました。

V・プレミアリーグ男女大会は今シーズンより新大会方式を採用しました。その目的は以下のとおりであります。

- (1)レギュラーラウンドの順位をプレーオフに反映させ、ファイナル進出における有利性とする事で、レギュラーラウンドを活性化させる。
- (2)ポストシーズンの長期化による、ポストシーズンの緊張感の創出。
- (3)ポイント制導入による、「世界大会基準」の順位決定方法の導入。

V・プレミアリーグ女子大会は8チームの参加により、2014年11月15日に東京体育館(東京都渋谷区)にて、男子大会は8チームの参加により、小牧市スポーツ公園総合体育館(愛知県小牧市)において開幕しました。大会方式は3回戦総当りのV・レギュラーラウンドを行い、その結果、上位6チームによるV・ファイナルステージ(ファイナル6、ファイナル3、ファイナル)を開催し、女子大会は2015年4月4日、男子大会は4月5日にそれぞれ決勝戦を戦いました。女子はNECレッドロケッツが10年ぶり5回目の優勝、男子はJTサンダースが創部84年目にして初優勝を飾り閉幕しました。

V・チャレンジリーグ女子大会は10チームの参加により、2014年11月15日上天草市大矢野総合体育館(熊本県上天草市)にて、男子大会は12チームの参加により2014年11月8日に桜総合体育館(茨城県つくば市)と坂戸市民総合運動公園体育館(埼玉県坂戸市)において、それぞれ開幕しました。大会方式は、前シーズンと同様の2回戦総当りのレギュラーラウンドを行い、女子はJTマーヴェラスが12年ぶり3回目の優勝、男子は大分三好ヴァイセアドラーが9年ぶり2回目の優勝で、男女両大会とも2015年3月15日に幕を閉じました。

V・チャレンジマッチは、V・プレミアリーグ男女の7位・8位チームならびにV・チャレンジリーグ男女の優勝・準優勝チームの全8チームが参加し、2015年3月28日及び29日、横浜文化体育館(神奈川県横浜市)において開催しました。男女とも白熱した試合を展開しましたが、結果は僅差で男女ともプレミアリーグ所属のチームが勝利し、V・プレミアリーグ残留を決めました。

さらに、2015年4月12日韓国(ソウル・ジャンチュン体育館)において、2015日韓V. LEAGUE TOP MATCHを開催しました。日本からはV・プレミアリーグ男女の優勝チームを派遣しました。同大会の終了をもって、今シーズンの全ての競技日程を終了いたしました。

Vリーグ機構の活動成果を経営数値で見ますと、総試合数減により譲渡金収入が大幅に減少しました。その反面協賛金収入等が増加に転じたことにより、収入総額は518,776千円(対前期14,913千円増)となりました。また費用面では、費用の見直しと経費の節減を図りましたが、今シーズンより採用したV・ファイナルステージの告知広報活動に費用を投入したこともあり、費用が増加しました。この結果、費用総額は495,749千円(対前期5,284千円増)となりました。経常利益は23,073千円(対前期9,704千円増)、当期純利益は14,860千円(対前期4,633千円増)の増収増益となりました。

以下、事業内容を、メイン事業のV・プレミアリーグ及びV・チャレンジリーグを中心に詳述致します。

2. 事業内容

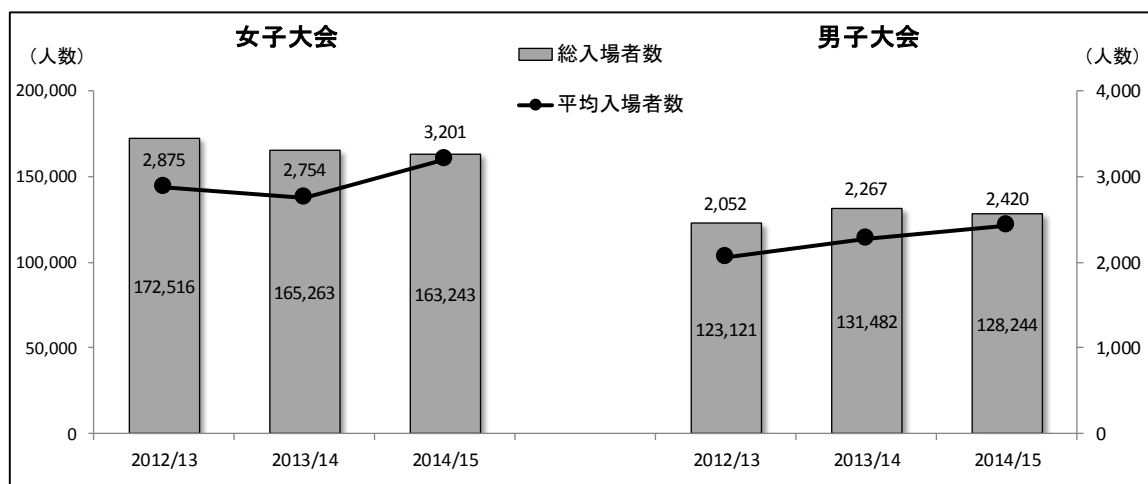
(1) V・プレミアリーグ

2014/15シーズンは、女子大会・男子大会ともに参加8チームによる3回戦総当たりリーグ戦のレギュラーラウンドとレギュラーラウンド上位6チームによるファイナルステージ(ファイナル6、ファイナル3、ファイナル)の競技形式で、レギュラーラウンド84試合、ファイナルステージ17試合の計101試合、男女合計で202試合を延べ61会場(女子32会場、男子29会場)にて開催しました。

観戦入場者数を見ると、女子大会・男子大会合計で291,487人(対前年5,258人減)、女子大会は163,243人(対前年2,020人減)、男子大会は128,244人(対前年3,238人減)、となりました。1開催日平均では、女子が3,201人(対前年447人増)、男子が2,420人(対前年153人増)でした。

テレビ放送に関しては、女子大会は40試合(全試合に占める割合39.6%)、男子大会は23試合(全試合に占める割合22.8%)放送したのに加え、株式会社ドワンゴのニコニコ生放送(インターネット動画中継配信)にて、V・プレミアリーグ全試合の動画配信を行いました。女子大会・男子大会ともに視聴者数が順調に増加しました。また、開幕記者会見に加え、V・チャレンジマッチおよび2015日韓V. LEAGUE TOP MATCHも動画配信を行いました。その結果、視聴者総数6,335,311人の方にインターネットを通じてVリーグ関連試合をご覧いただきました。

〈観戦入場者数の推移〉



〈テレビ放送及びインターネット動画配信(ニコニコ生放送)実績の推移〉

	女子大会【レギュラーラウンド、ファイナルステージ】						
	BS 放送 (全国放送)	CS 放送 (全国放送)	地上波 (地方放送)	放送 試合数	全試合に 占める放送 割合 (%)	インターネット動画配信	
	放送数	放送数	放送数			放送数	配信視聴者数
2012/13 シーズン	17	20	7	* 44	36.7	24	576,833
2013/14 シーズン	14	17	8	* 39	32.5	41	855,713
2014/15 シーズン	13	21	6	* 40	39.6	101	1,972,777

*一部、複数メディアによる重複放送があります。

	男子大会【レギュラーラウンド、ファイナルステージ】						
	BS 放送 (全国放送)	CS 放送 (全国放送)	地上波 (地方放送)	放送 試合数	全試合に 占める放送 割合 (%)	インターネット動画配信	
	放送数	放送数	放送数			放送数	配信視聴者数
2012/13 シーズン	13	10	—	23	19.2	20	426,231
2013/14 シーズン	11	16	—	27	22.5	13	304,347
2014/15 シーズン	8	15	—	* 23	22.8	101	1,618,432

*一部、複数メディアによる重複放送があります

注 インターネットを通じてVリーグ関連試合及びイベントを視聴者総数6,335,311人(再放送等を含む)の方にご覧いただきました。

2014/15 シーズンも、Vリーグ機構が掲げたビジョン、「世界に挑戦」「ファン重視」「地域に密着」「常に発展」「成果の拡大」に沿った諸施策を推進しました。主なものとしては、次の通りです。

① 大会キャッチコピー

毎年一般から公募して決めているVリーグのキャッチコピーについて、21年目を迎えた今シーズンは新たな一歩として新開催方式を採用し、「ポイント制の導入」、「新ポストシーズンの採用」、国内最高峰リーグとして、更なる高みを目指し『Vの光～新たな一歩を踏み出すとき～』と決定しました。

② 普及とファンサービス

- (I) 北から南まで全国延べ 61 会場で開催
- (II) キッズエスコートを全会場での実施
- (III) 開場後からプロトコール前後のイベントの充実を図る
- (IV) エントランスアーチなど会場内外演出の充実を図る
- (V) リニューアルしたサイン入りミニボールの投げ込みの実施
- (VI) 選手のトレーディングカードを製作、販売

③ ファイナルステージの充実

- (I) V・レギュラーラウンド 1 位チームへの賞金の授与継続
- (II) 会場演出ツールのリニューアルと全会場MCの採用
- (III) Vリーガー・オブ・ザ・マッチ (VOM) の創設による選手モチベーションの醸成
- (IV) ファイナル 3 の男女大会同日、同会場開催
- (V) V・ファイナルステージポスター・チラシ製作(開催地へ画像データでの展開)
- (VI) 各開催地へ告知、広報活動支援の助成金を支給
- (VII) ファイナルでのイベント(ファンサービス)の充実
- (VIII) ファイナル・ワンデイプログラムの発行

④ ホームページ等によりファンサービスの充実と盛り上げ

- (I) ホームページの有料サイトの充実、情報発信の迅速化、画像情報強化など実施
- (II) 試合映像のオンデマンド配信サービスの開始
- (III) SNSと連動した迅速な情報発信
- (IV) JVISスーパーバイザー制度による判定員の意識向上とレベルアップ

⑤ ホームゲームの充実

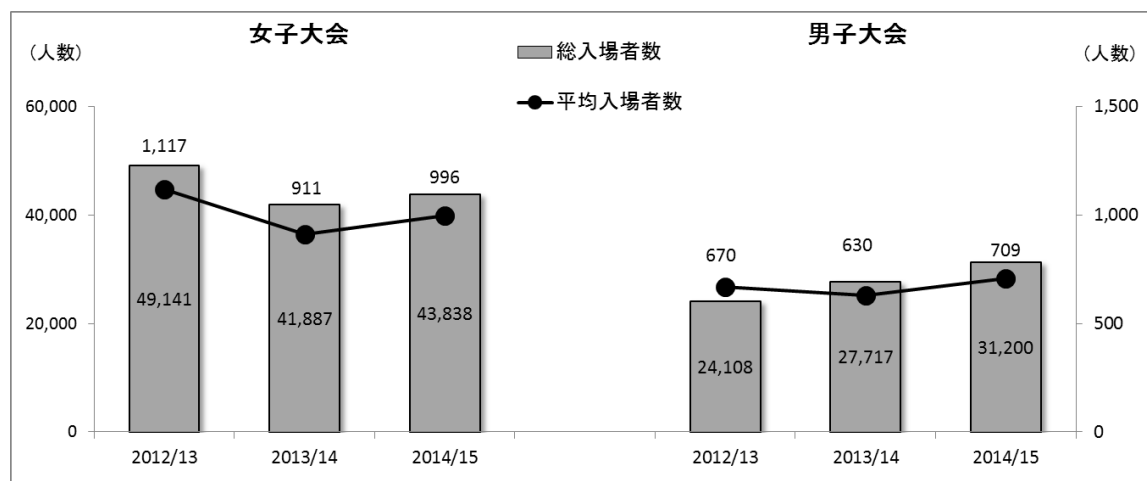
- (I) 計画的な運営(ホームゲーム計画書の提出の義務化)とイベント充実の促進
- (II) 各チームでの取り組みの充実
- (III) V・レギュラーラウンドで女子大会全 84 試合中 24 試合、男子大会全 84 試合中 32 試合でホームゲーム実施

(2)V・チャレンジリーグ

2014/15 シーズンのV・チャレンジリーグは、女子大会が 10 チーム参加、男子大会が 12 チーム参加による 2 回戦総当たりリーグ戦とし、女子 90 試合、男子 132 試合、男女合計で 222 試合を延べ 49 会場(女子 24 会場、男子 25 会場)にて開催しました。

観戦入場者数を見ると、男女合計で 75,038 人(対前年 5,434 人増)、女子大会は 43,838 人(対前年 1,951 人増)、男子大会は 31,200 人(対前年 3,483 人増)、となりました。1 開催日平均では、女子が 996 人(対前年 85 人増)、男子が 709 人(対前年 79 人増)でした。

観戦入場者数の推移



V・チャレンジリーグもV・プレミアリーグと同様に更なる大会の質の向上をめざし、Vリーグ機構のビジョンに沿った様々な施策を行いました。

① 普及とファンサービス

- (I) 北から南まで全国延べ 49 会場での開催
- (II) キッズエスコートの開催とサイン入りミニボールをスターティングメンバーが投げ込み
- (III) 表彰式、チーム表彰を最終日に行うことでのファンの方々に披露

② ホームタウンゲームの充実

- (I) V・レギュラーラウンドで女子大会では 32 回、男子大会では 46 回ホームゲーム実施
- (II) 地域密着を心がけた特色のあるイベントの充実

(3) 社会貢献活動

① 公益財団法人日本骨髄バンク支援活動の継続

Vリーグ機構では社会貢献活動の一環として日本骨髄バンクへの支援活動を行いました。2014/15 シーズンの主な活動は以下の通りです。

(I) シール・チラシの配布

V・プレミアリーグ、V・チャレンジリーグの試合会場で、ドナー登録呼びかけのチラシを配布。チラシと各チームロゴを配布し、啓蒙活動を行いました。

(II) Vリーグ試合会場内に啓蒙用の横断幕等の設置

V・プレミアリーグではコートサイドにバナー、V・チャレンジリーグではのぼりや横断幕などを設置、普及啓蒙活動とドナー登録の呼びかけを行いました。

(III) ファイナル会場において募金活動

2015年4月4日、5日の両日に行われました2014/15Vプレミアリーグ男女大会「V・ファイナルステージ ファイナル」の会場内ではVリーグ選手らの協力による募金活動行いました。また、同じく写真撮影会イベントを行いました。募金活動とイベント収益の一部を日本骨髄バンクへ総額412,478円寄付いたしました。

屋外においては、献血車を設置し、ドナー登録活動を行いました。

②東日本大震災復興支援活動

Vリーグ機構では、2011年3月に発生した東日本大震災に対し、恒久的な復興支援活動を継続致しました。

(4)普及活動

Vリーグ機構は年間を通して、バレーボール教室の開催(チームが行うバレーボール教室及びJVA指導普及委員会の行なう「Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室」)や、2003年度から始めた「ジュニア育成支援活動」など、ジュニアの育成、地域に密着した社会貢献型の活動にも引き続き力を入れてきました。

① Vリーグチームによるバレーボール教室

V・プレミア、V・チャレンジ両リーグのチームが主催したバレーボール教室は、全国各地で延べ1,251日開催(昨年対比39%増)、小学生から家庭婦人まで87,493人の受講者(昨年対比162%増)を迎え開催しました。

② 「V・明日夢プロジェクト」バレーボール教室

VリーグOB/OGを組織化して2012年に創設した「V・明日夢プロジェクト」から積極的に講師を派遣し、バレーボール普及のために、さまざまな活動を行いました。本年度は全国51会場でバレーボール教室の開催と講演会活動を行いました。また、Vリーグ開催期間中ゼビオグループとのタイアップ企画として、Vリーグ大会前日の装飾されたメインコートで、小学生を対象としたバレーボール教室を全国10会場で開催しました。コート外での、ゼビオブースにおいて足型測定やシューズの試し履きなどの体験をしました。

③ Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室

JVA指導普及委員会の行なうVリーグ選手と一緒にバレーボール教室を、今年度も全国10会場にて開催し、1,569人の参加者がありました。

④ ジュニアチームによるエキシビションマッチ

未来のVリーガーを数多く育てるための施策として、2014/15V・プレミアリーグ男子開幕戦の開幕イベントとして15日、16日両日の第1試合開始まえにV・プレミアリーグ男子チームのジュニアチーム同士によるエキシビションマッチを開催しました。

(5)国際交流

① AVCアジアクラブ選手権・FIVB世界クラブ選手権への派遣

FIVB世界クラブ女子選手権大会2015は2015年5月6日～10日にチューリッヒ(スイス)において行われ、久光製薬スプリングスがアジア代表クラブとして出場しました。

初戦でヨーロッパチャンピオンに勝利し、ポイントの差で予選リーグを3位となり、最終成績5位で大会を終えました。

② 2015日韓V.LEAGUE TOP MATCH

2015日韓V.LEAGUE TOP MATCHは2015年4月12日韓国ソウルのジャンチュン体育館において日本(Vリーグ機構)と韓国(韓国バレーボール聯盟)の両国Vリーグチャンピオン同士が対戦しました。日本代表チームとして、JTサンダースとNECロッドロケッツを派遣し、JTは惜しくも韓国王者のOK貯蓄銀行にフルセットの末敗戦しましたが、NECはIBK企業銀行に勝利しました。

(6) 研修会・委員会活動

① 監督研修会・JURY 会議・レフェリークリニック

監督研修会は、今年度の重点テーマを「競技力の向上と国内トップリーグとしての役割」とし、多くのゲストスピーカーを招き充実した研修会となりました。

同一日程同一会場の別室において、2014/15 シーズン開幕に向けた JURY 会議を開催したほか、5 日午後からは、全チームの監督と JURY、特別審判員が一堂に会し、2014/15 シーズンで適用するルールの確認等を行う、レフェリークリニックを開催致しました。

開催日 2014 年 10 月 4 日、5 日

会場 パナソニック株式会社内 人材開発カンパニー研究室(大阪府枚方市)

出席者 監督研修会 計 39 名

JURY 会議 計 22 名

レフェリークリニック 計 102 名

② 開催地・チーム合同会議

開催地・チーム合同会議はVリーグの大会に際して、そのシーズンの大会運営に関する最終確認を行う会議として毎年実施しています。2014/15 シーズンに向けた同会議を多数の大会関係者を集め開催致しました。

開催日 2014 年 9 月 13 日

会場 KFC Hall(東京都墨田区)

出席者 計 157 名

③ Vリーグ機構増客研修会

前年に行った観戦者調査の結果をもとにVリーグ大会の観戦者について理解を深めるとともに、講演とグループワークを通して今後のVリーグ大会の増客について、チームならびにバレーボール界の抱えている課題の解決を図ることを目的に開催しました。

開催日 2014 年 9 月 14 日

会場 KFCビル内会議室(東京都墨田区)

出席者 計 74 名

④ プレーヤーズミーティング

2013 年に開催したキャプテンミーティングを発展させ、選手の意見をリーグに反映させることを目的に、プレーヤーズミーティングを初めて開催しました。

開催日 2014 年 9 月 20 日、21 日

会場 川崎市商工会議所本所・川崎支所(神奈川県川崎市)

出席者 計 33 名(各チームより選手 1 名参加)

⑤ 2015/16 プレミアリーグ準備委員会、チャレンジリーグ男女改革小委員会

ステアリングコミッティでの運営方式の改革に関する議論を受け、2015/16 シーズンからのプレミアリーグの更なる活性化並びに2015/16 シーズンからのチャレンジリーグの改革を議論することを目的に、2013 年より活動を開始しました。今年度も活発な議論を行いました。

⑥ V50 周年イベント委員会

国内リーグ 50 周年である 2016/17 シーズンまで継続性を持った記念事業の企画立案することを目的に今年度より活動を開始しました。

(7) 助成金

独立行政法人日本スポーツ振興センターより、我が国における国際競技力の向上を期すための国の助成金制度「競技強化支援事業助成金(国庫基金)」および「スポーツ振興くじ助成金」の交付を受けました。今年度については、両助成金で 37,981 千円の交付を受け、マネジメント機能強化、研修会やV・プレミアリーグ活性化、V・チャレンジリーグの強化育成・活性化に活用しました。

今後とも制度の主旨に沿った有効活用を心がけ、競技力向上とリーグ活性化に努めてまいります所存です。

(8) 協賛金

今シーズンもV・プレミアリーグに対して、従来からの協賛頂いている企業に加え、今期より新たに数社の企業より協賛を頂くことができました。

協賛いただきました各企業の皆様と、お世話になりました株式会社電通に厚く御礼申し上げます。

国内景気も緩やかに回復基調に転じ、2016/17 シーズンに国内リーグ 50 年目を迎え、さらに 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催と、バレーボール界を取り巻く環境も変化するものと思われま

す。Vリーグ機構としましては、主催大会の一層の活性化に努め、魅力あるリーグ運営に努めてまいります。

法人設立時に掲げた 5 つのビジョンの実現に向け、より開かれた組織運営と事業活動を継続して取り組むとともに、公益財団法人日本バレーボール協会をはじめ、都道府県バレーボール協会他関係諸団体との協力関係についてもより一層の緊密化を図り、社員各位の期待に応えてまいります所存です。

社員の皆様におかれましては、引き続き格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

3. 社員の概況

*社員名、チーム名は2015年6月30日現在（順不同）

社員名	チーム名	区分	基金の口数	基金の額（円）
公益財団法人日本バレーボール協会			12	6,000,000
株式会社ワーク	岡山シーガルズ	女子	1	500,000
サントリーホールディングス株式会社	サントリーサンバーズ	男子	1	500,000
株式会社デンソー	デンソーエアリービーズ	女子	1	500,000
東レ株式会社	東レアローズ	男子	1	500,000
	東レアローズ	女子	1	500,000
豊田合成株式会社	豊田合成トレフェルサ	男子	1	500,000
日本たばこ産業株式会社	JTサンダーズ	男子	1	500,000
	JTマーヴェラス	女子	1	500,000
日本電気株式会社	NECレッドロケッツ	女子	1	500,000
久光製薬株式会社	久光製薬スプリングス	女子	1	500,000
日立オートモティブシステムズ株式会社	日立リヴァーレ	女子	1	500,000
株式会社ブレイザーズスポーツクラブ	堺ブレイザーズ	男子	1	500,000
パナソニック株式会社	パナソニックパンサーズ	男子	1	500,000
一般社団法人上尾中央医科グループ協議会	上尾メディックス	女子	1	500,000
株式会社大野石油店	大野石油広島オイラーズ	女子	1	500,000
近畿クラブ	近畿クラブスフィード	男子	1	500,000
警視庁	警視庁フォートファイターズ	男子	1	500,000
株式会社ジェイテクト	ジェイテクトSTINGS	男子	1	500,000
医療法人青雲白鷺会三好内科・循環器科医院	大分三好ヴァイセアドラー	男子	1	500,000
大同特殊鋼株式会社	大同特殊鋼レッドスター	男子	1	500,000
一般社団法人つくばユナイテッドサンガイア	つくばユナイテッドSun GAIA	男子	1	500,000
医療法人社団天宣会	柏エンゼルクロス	女子	1	500,000
東京フットボールクラブ株式会社	FC東京	男子	1	500,000
トヨタ自動車株式会社	トヨタ自動車サンホークス	男子	1	500,000
	トヨタ自動車ヴァルキューレ	女子	1	500,000
トヨタ車体株式会社	トヨタ車体クインシーズ	女子	1	500,000
東京ヴェルディ1969フットボールクラブ株式会社	東京ヴェルディ	男子	1	500,000
富士通株式会社	富士通カワサキレッドスピリッツ	男子	1	500,000
KUROBEアクアフェアリーズ	KUROBEアクアフェアリーズ	女子	1	500,000
株式会社PFU	PFUブルーキャッツ	女子	1	500,000
NPO法人阪神バレーボールコミュニティ	兵庫デルフィーノ	男子	1	500,000
特定非営利活動法人仙台ベルフィーユ	仙台ベルフィーユ	女子	1	500,000
株式会社きんでん	きんでんトリニティーブリッツ	男子	1	500,000
東京トヨペット株式会社	東京トヨペットグリーンスパークル	男子	1	500,000
株式会社熊本サービスセンター	フォレストリーヴズ熊本	女子	1	500,000
グリーン・サポート・システムズ株式会社	GSSサンビームズ	女子	1	500,000
ぎふ農業協同組合	JAぎふリオレーナ	女子	1	500,000
NPO法人アザレア・バレーボール振興会	埼玉アザレア	男子	1	500,000
合計	(36団体) (38チーム)		50	25,000,000

4. 運営体制の強化

2014年9月24日に開催した第9回定時社員総会終了のときをもって全理事が任期満了により退任し、新たに12名の理事を選任しました。また、社員総会後の理事会において、木村憲治を代表理事会長に再任、嶋岡健治を副会長に選任しました。

(1) 役員一覧

2015年6月30日現在

代表理事 (会長)	きむら けんじ 木村 憲治	1945年(昭和20年)7月19日生 第5期監事 第6期～第10期代表理事会長 (株)扇港電機 顧問 公益財団法人日本バレーボール協会 会長
理事 (副会長)	しまおか けんじ 嶋岡 健治	1949年(昭和24年)5月9日生 10期理事(うち第10期副会長) (株)オーテック 専務取締役 公益財団法人日本バレーボール協会 評議員
理事	みよし とおる 三好 徹	1947年(昭和22年)4月15日生 第2期～第10期理事 三好総合法律事務所 所長
理事	くぼた りゅういち 窪田 隆一	1963年(昭和38年)4月29日生 第6期～第10期理事 富士通(株)インテグレーションサービス部門事業推進統括部長 富士通カワサキレッドスピリッツ 部長
理事	はやし たかひこ 林 孝彦	1959年(昭和34年)8月1日生 第6期～第10期理事 一般社団法人日本バレーボールリーグ機構 事務局長
理事	かやしま あきら 萱嶋 章	1957年(昭和32年)10月4日生 第8期～10期理事 久光製薬(株)鳥栖工場厚生部 部長 久光製薬スプリングス部長
理事	さとう なおじ 佐藤 直司	1961年(昭和36年)11月7日生 第8期～10期理事 グラントソントン太陽ASG税理士法人 ディレクター
理事	みずかわ まつね 水川 松根	1959年(昭和34年)10月10日生 第8期～10期理事 トヨタホーム(株)法人営業部 豊田合成トレフェルサ副部長
理事	よしはら ともこ 吉原 知子	1970年(昭和45年)2月4日生 第8期～10期理事 公益財団法人日本バレーボール協会 強化スタッフ JTマーヴェラス監督
理事	にしわき よしはる 西脇 克治	1951年(昭和26年)10月9日生 10期理事 公益財団法人日本バレーボール協会 前執行役員事務局長
理事	ふじた とおる 藤田 徹	1961年(昭和36年)1月19日生 10期理事 PFUヒューマンデザイン(株)取締役 執行役員常務 PFUブルーキャッツ部長
理事	まつおか ひろたか 松岡 宏高	1970年(昭和45年)1月22日生 10期理事 早稲田大学 教授
監事	たきもと のりあき 滝本 規明	1943年(昭和18年)12月4日生 第5期～第10期監事 サントリー(株) 社友
監事	はやの ようじ 早野 容司	1960年(昭和35年)3月3日生 第6期～第10期監事 (株)ジェイテクト営業本部 海外営業部 部長 ジェイテクトSTINGS GM